

長洲町合併60周年 記念式典



11月5日、ながす未来館で長洲町合併60周年記念式典を開催しました。式典では、これまで町政に多大な貢献をいただきました皆さんをはじめ、多くの来賓にご臨席いただきました。功労者表彰や基調講演、町出身者によるパネルディスカッションを行いました。

町合併 60周年記念式典

◆町功労者表彰

長洲町に貢献された22人、2団体が自治、教育、経済、福祉、文化、特別功労者として表彰されました。

功労者の皆さん（順不同・敬称略）

●自治功労者

市原 一廣（下東）
樋口 エミ子（出町）
浦田 計廣（向野）

●教育功労者

塩山 アイ子（東荒神）
西野 守（出町）
村上 克子（腹赤新町）
中島 征志（宮崎）

●経済功労者

藤木 靖秀（新町）
馬場 廣幸（清源寺）

●福祉功労者

宮崎 ミツエ（折地）
宮本 義直（清源寺）

●特別功労者

組脇 勝利（西荒神）
福田 俊行（今町）
浦島 義弘（磯町）
田上 蘭子（清源寺）
浦田 明子（平原）
金森 美空（新山）

◆基調講演

基調講演では、歌手の由紀さおり氏を講師として迎え、「美しい日本語の歌を伝えたい」というテーマのもと、基調講演を開催しました。

由紀氏は、自身の子ども時代や、歌手として活躍するまでのエピソードを交えながら、日本語や、日本文化の大切さについて熱く語られました。



ペレ コンストン ロベール
（清源寺）

福田 了栽（宮ノ町）
増岡 美知子（向野）

前田 守彦（出町）

長洲町老人クラブ連合会
長洲シニアソフトボールチーム



記念パネルディスカッション

『魅力的なまちづくりとは?』

～故郷への思いから見えてくるもの～

東京で活躍する町出身者3人と、町内在住の大学生2人をパネリストに迎え、魅力的なまちづくりとはなにか、今後の町の発展に必要なことについて語り合いました。



コーディネーター
今泉 重敏氏
(株)まちづくり計画研究所
代表取締役

今泉 長洲町をどう思っている?

福本 帰ってくるたびに、元気な街じゃなくなっていたら嫌だなとかいろいろ考えるけれど、毎回良い意味で裏切られる。私が住んでいた頃よりも元気な町になっているように感じます。外国人も多く見られますね。

福永 町を良くしようというエネルギーを感じる町だと思います。帰ってくるたびに変化を感じる町ですね。東京の人たちからの九州の認知度は低いように感じます。

竹村 地域の団結力を感じる町ですね。地域の決めごとなど、東京で驚かれることもあります。

田中 住んでいて心地よいです。駅もあるので、大学への通学にも便利です。ことし、小学校の教育実習に行きましたが、英語教育などの取り組みがすごいと思いました。大学の友人からの長洲町の認知度は低いですね。

林田 子ども会の行事が活発で地域間の交流が多くて良いと思います。

一方で若者向けのイベントや施設が少ないように感じます。

今泉 まちづくりと聞いてイメージすることは?

田中 より住みやすい町へと改善していくことだと思います。働く場所があつて、安心安全な町であることが大事だと思います。

林田 現在の町のまちづくりという面では、きんぎょタクシーの運行は交通の面で良いと思います。

今泉 今後のまちづくりへのヒントは?

福本 悲観的にならないこと。人口減少社会のなかで、大都市以外は全国の自治体も苦しみながら頑張っている。成功している自治体の共通点は、いろんな分野の人たちが結束して取り組んでいるということです。たくさんの人材を巻き込んで成功に向かっていくことが大事だと思います。



パネリスト
福本 容子氏
毎日新聞社論説委員
(梅田区出身)



パネリスト
福永 一茂氏
フジテレビ営業局
ローカル営業部副部長
(宝町区出身)

「発信力」

福永 今日のために帰ってきて、明海の夕日に感動しました。当たり前風景でも町を離れて気づくこともある。的ばかりも大変インパクトのあるものだと思います。ぜひアピールして欲しいと思います。それと、長洲町はアクセスも良いのでいろんな形のアプローチができる町だと思います。

竹村 私の周りでは多拠点生活の暮らし方が増えてきています。仕事の打ち合わせなど以外は地方に戻って仕事をするというものです。長洲町は福岡市や熊本市の郊外としても充分機能すると思います。家賃など東京と比べると安いので、それもアピール材料だと思います。



パネリスト
竹村 優子氏
幻冬舎 plus 編集長
(清源寺区出身)

「続ける」

今泉 より良い町にいくためのキーワードは?

福本 「情熱」情熱がないとなにも始まらない。1人だけが持っていてダメですよ。そこに住む人が情熱を持って取り組んでいくことが大切だと思います。

福永 「発信力」いまは、SNSなどで情報を発信することが非常に簡単な世の中になりましたよね。発信すること、発信してもらうことを意識して、たくさんの人に投げかける力が必要になってくると思います。ぜひ有明海の夕日も発信してほしいです。発信力のある人材も出てきてほしいですね。

竹村 「続ける」イベントひとつにしても続けることが大切。そのためには「情熱」「発信力」もやはり大切な要素ですね。

田中 「世代間交流」1人よりも大勢の力のほうができることは増えます。若者にしかない力、高齢者の知識や技能など、年代を超えて人との繋が



パネリスト
田中 俊暉さん
町内在住大学生
(大明神区)

「世代間交流」



パネリスト
林田 萌衣実さん
町内在住大学生
(東荒神区)

「広げる」

林田 「広げる」長洲町は金魚が有名なので、外国にアピールしたり交流に繋げていくなど、町の持っている武器をさまざまな分野に広げていくことが大切だと思います。

福本 世界一、〇〇な金魚とかで今までと違う発想で広げていっても面白いかもしれません。

今泉 そういう発想を出すにはどうしたらいいですか?

福永 トライ＆エラーという言い方もあります。やってみてダメだったら辞めればいい。必ず成功しなきゃというのではないと思います。

福本 時には石橋を叩かなくてもいいと思います。長洲町にしかないものを考えて、そして実行していったほうがいいです。



終演後に皆さんで記念撮影

パネルディスカッションを終えて

田中 ここに呼んでいただけしたこと、これまで育ててくれた人々たちへの感謝の気持ちでいっぱいです。これからも今日学んだことを糧に、人との繋がりを大切に、感謝の気持ちをもって頑張っていこうと思います。

林田 より良いまちづくりには、発信することや持っているものを活かしていくことが大切だと学びました。貴重な経験をさせていただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。